



特別展連続セミナー 第9回

世界は植民地主義の過去にどう向き合っているのか ～「植民地責任」の射程～

2020年9月6日(日) 15:00-17:00 参加費:800円

ゲスト: 永原陽子さん (京都大学教員)

「戦時性暴力」と位置づけられる日本軍「慰安婦」制度ですが、朝鮮や台湾からの女性の動員は、日本の植民地支配と切り離すことはできません。「慰安婦」や徴用工の課題など、植民地主義の責任と戦争責任の両方がからむ東アジアの状況は、世界史的な脱植民地化の文脈ではどう見えてくるでしょうか？

東西冷戦終結後、英仏独などの旧帝国、あるいは「黒人奴隸制」に対する責任が問われる米国も、植民地主義の過去に向き合うことを求められてきました。2020年5月、白人警察官がまたもやアフリカ系の男性を殺害した事件以降、ブラック・ライブズ・マター(BLM、黒人の命は大切だ)運動は、人種主義、帝国主義、植民地主義の歴史を根底から問う大きなうねりとなっています。

植民主義や奴隸制を支えてきたシステムを長い支配下での暴力の事実をどう認め、どう責任を果たすのかー。『「植民地責任」論』から10年、この間に世界各地でおこっている植民地支配の過去をめぐる議論についてうかがいます。

永原陽子: 東京外国语大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授を経て、現在、京都大学大学院文学研究科教授。専門はナミビア・南アフリカを中心とする南部アフリカ地域の歴史、脱植民地化の世界史的考察、特に植民地暴力とジェンダー化された権力との関係について研究している。編著書に『「植民地責任」論—脱植民地化の比較史』青木書店、2009年、『人々がつなぐ、世界史』ミネルヴァ書房、2019年ほか。



参加方法

会員限定、申し込み先着 100 名様まで

- ①今回のセミナーはZoomを使ってオンラインで開催します。
- ②事務局(wam@wam-peace.org)宛メールで**件名を「特別展セミナー参加」として、お名前、会員番号**(会員番号は封筒に記載されています)を明記の上お申し込みください。
* 非会員のみなさま、この機会にぜひご入会ください！
- ③参加費の納入(郵便振り込み／オンライン決済)確認後にZoomのリンクとパスワードをお送りします。
* Zoomの使い方に不安のある方は、「Zoom」「初心者」などの検索ワードで事前に操作方法をお調べください。パソコンやスマホをお持ちでない会員のみなさま、申し訳ありません。コロナの状況によっては、wamで少人数受け入れも検討しています。ご相談ください。

お問合せ：アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」(wam)

東京都新宿区西早稲田2-3-18 AVACOビル2F T:03-3202-4633 F:03-3202-4634 E-mail:wam@wam-peace.org